

『高等学校 古典（古文編・漢文編）改訂版』

発行者番号	教科書の記号・番号
15 三省堂	古典 030・031

A5判、古文編232ページ、漢文編160ページ

< 1. 編集方針 >

- 国語総合の学習成果をもとに、伝統的な日本の言語文化について認識を深め、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、現代社会を生きてゆくための国語の力を確かなものとして獲得することをめざしています。
- 学習者の古典に対する興味・関心を喚起し、生涯にわたって古典に親しむ態度を育てることを意図しています。

< 2. 構成、教材の配置 >

- 多様な授業計画に即応する分冊型の古典教科書です。
- 古文編・漢文編ともに二、三年の通年履修を想定し、二部構成としています。
- 古文編……第Ⅰ部、第Ⅱ部ともに七単元構成としています。
第Ⅰ部の第一単元に「説話」を配して導入とし、以下、時代とジャンルの観点から作品を組み合わせて教材化しています。
特に、説話・日記・随筆・物語等に加えて「評論」の教材採録も試み、日本古典文学の全体像を俯瞰できるようにしています。
- 漢文編……第Ⅰ部五単元、第Ⅱ部六単元の構成としました。
第Ⅰ部の第一単元に「小話」を、第Ⅱ部の第一単元に「三国志」を配し、以下、漢詩・文章・史話・思想・小説を学習の流れを考慮して適切に配列しています。

< 3. 教材選定の観点 >

- 評価の定まった代表的な日本古典の中から、高校二・三年という学習者の発達段階にふさわしく、学習意欲を喚起するような親しみやすいものを選んでいきます。
- 描かれている思想や感情が時代を超えた普遍的な感動を呼び覚ますような内容、読むという行為の知的な楽しさを実感できるような内容をもつ部分を、教材としています。
- 漢文編では、「日本の漢詩文」を取りあげ、日本人が自ら作り上げた漢字文化の姿にも触れることができるようにしています。
- 古文編では「能」を通じた表現活動を設け、具体的な言語活動を通して古文を取り巻く文化的状況を、学習者自身が生き生きと感得できるようにしています。

< 4. 言語事項、教材化、学習上の配慮 など >

- 教材末に「学習の手引き」を設け、内容理解の手がかりとなる課題と、その理解を高め、発展させるための学習活動を示しました。また、内容に即した語彙、文法学習とが相互に関連した形で展開できるよう特に留意しました。
- 脚注欄には、本文を理解する上で注意すべき事柄を問いの形で示し（▼印）、古文編では学習上の基本的な「語句」を、漢文編では同じく「句法」を掲げています（*印）。
- 読解や鑑賞の補助的資料として、写真や挿絵、図版を、鮮明さ・見やすさを重視して選定し、掲載しています。
- 掲載した絵画等の資料には、その制作年代を示しています。